

# 大阪市英語教育改善プラン

## (1) 英語教育の状況を踏まえた目標

## ① 学習到達目標の整備状況

	設定		公表		達成状況の把握	
	目標値	現状	目標値	現状	目標値	現状
高等学校	100.0%	45.2%	100.0%	19.4%	100.0%	19.4%
中学校	100.0%	100.0%	100.0%	10.8%	100.0%	21.5%
小学校	100.0%	100.0%	100.0%	—	100.0%	—

- ・平成30年に義務教育9年間を通した「大阪府版『CAN-DO リスト』の形での学年別到達目標（大綱）」を策定し、全小中学校が各学年における領域ごとの目標を共有するとともに、本市ホームページにて公表している。
- ・CAN-DO リストを活用した「指導と評価の一体化」が図れるよう、教育委員会が具体的かつ有効な活用方法を示す必要がある。
- ・高等学校では、令和元年時点の設定率 45.2%、公表率 19.4%であったが、各校においてCAN-DO リスト形式の学習到達目標を策定し、令和3年度末までに100%の整備をめざす。

## ② 生徒の授業における英語による言語活動を行う時間の割合

	目標値	現状
高等学校	75.0%	43.5%
中学校	75.0%	56.3%

- ・授業の半分以上の時間、英語による言語活動を行っている教員の割合が75%以上を達成目標値として設定する。
- ・新学習指導要領の実施に向けた研修等により、徐々に授業改善は進んでいるものの、依然として言語活動を行う時間が十分に確保できていない。令和元年度英語教育実施状況調査の結果によると、授業の半分以上の時間、言語活動を行っていると回答した割合が中学1・2年生に比べ、語彙力・表現力が増している3年生の方が6.8ポイントも下回っており、受験指導に偏重した授業が行われていることが考えられる。
- ・大阪府中学校教育研究会英語部が令和元年に行ったアンケート結果によると、4技能のうち「話すこと」「書くこと」が指導しにくいと回答した教員の割合が83%であり、指導時間の確保の困難さや教員自身の英語力の問題等を挙げている。

## ③ パフォーマンステストの実施状況

		目標値	現状	
高等学校	スピーキングテスト	コミュニケーション英語Ⅰ	2.5回	0.6回
		コミュニケーション英語Ⅱ	2.0回	1.4回
		コミュニケーション英語Ⅲ	2.0回	0.2回
		英語表現Ⅰ	2.5回	0.6回
		英語表現Ⅱ	2.1回	0.3回
	ライティングテスト	コミュニケーション英語Ⅰ	2.0回	0.5回
		コミュニケーション英語Ⅱ	2.0回	0.6回
		コミュニケーション英語Ⅲ	2.0回	0.3回
		英語表現Ⅰ	2.0回	0.4回
		英語表現Ⅱ	2.1回	1.0回
中学校	スピーキングテスト	10.0回	10.3回	
	ライティングテスト	10.0回	7.6回	

- ・高等学校において、パフォーマンステストの実施状況は、学校が設置している主たる学科が異なるため、取組に大きな差がある。
- ・中学校では、スピーキングテストとライティングテストの両方を実施している学校が、70%程度であり、実施できていない学校においては、時間の確保の困難さや英語担当教員の指導法における不安等が考えられる。

④ 英語担当教員の授業における英語使用状況

	目標値	現状
高等学校	75.0%	44.0%
中学校	75.0%	46.0%

- ・高等学校、中学校ともに75%以上を達成目標値として設定する。
- ・高等学校において、授業における英語使用状況は、学校が設置している主たる学科が異なるため、取組に大きな差があり、高校全体としては目標に到達していない状況にある。
- ・中学校においては、前年度より6.8ポイント上昇し、授業を英語で行う意識が徐々に高まっている。

⑤ 求められる英語力を有する英語担当教員の割合

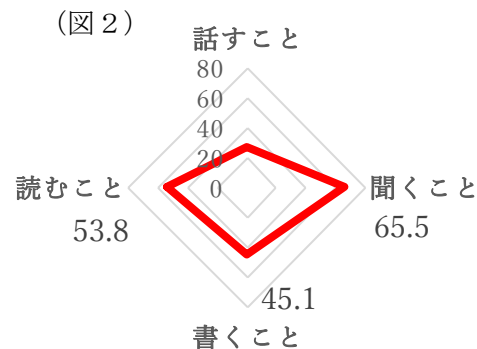
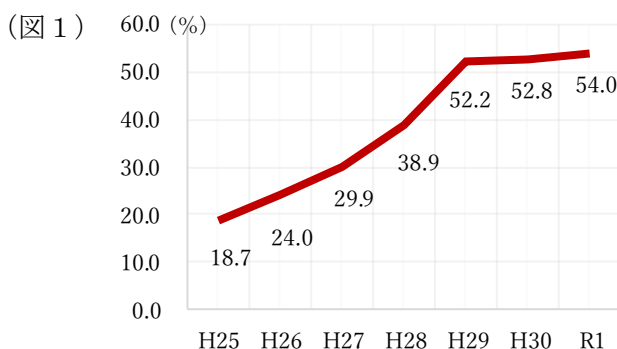
	目標値	現状
高等学校	75.0%	71.6%
中学校	50.0%	30.4%

- ・高等学校においては、CEFR B2レベル以上を取得している教員の割合が70%を超えており、今後も75%以上を達成目標値として設定する。
- ・中学校においては、30.4%となっており、前年度よりは3.4ポイント上昇している。今後も50%以上を達成目標値として設定する。

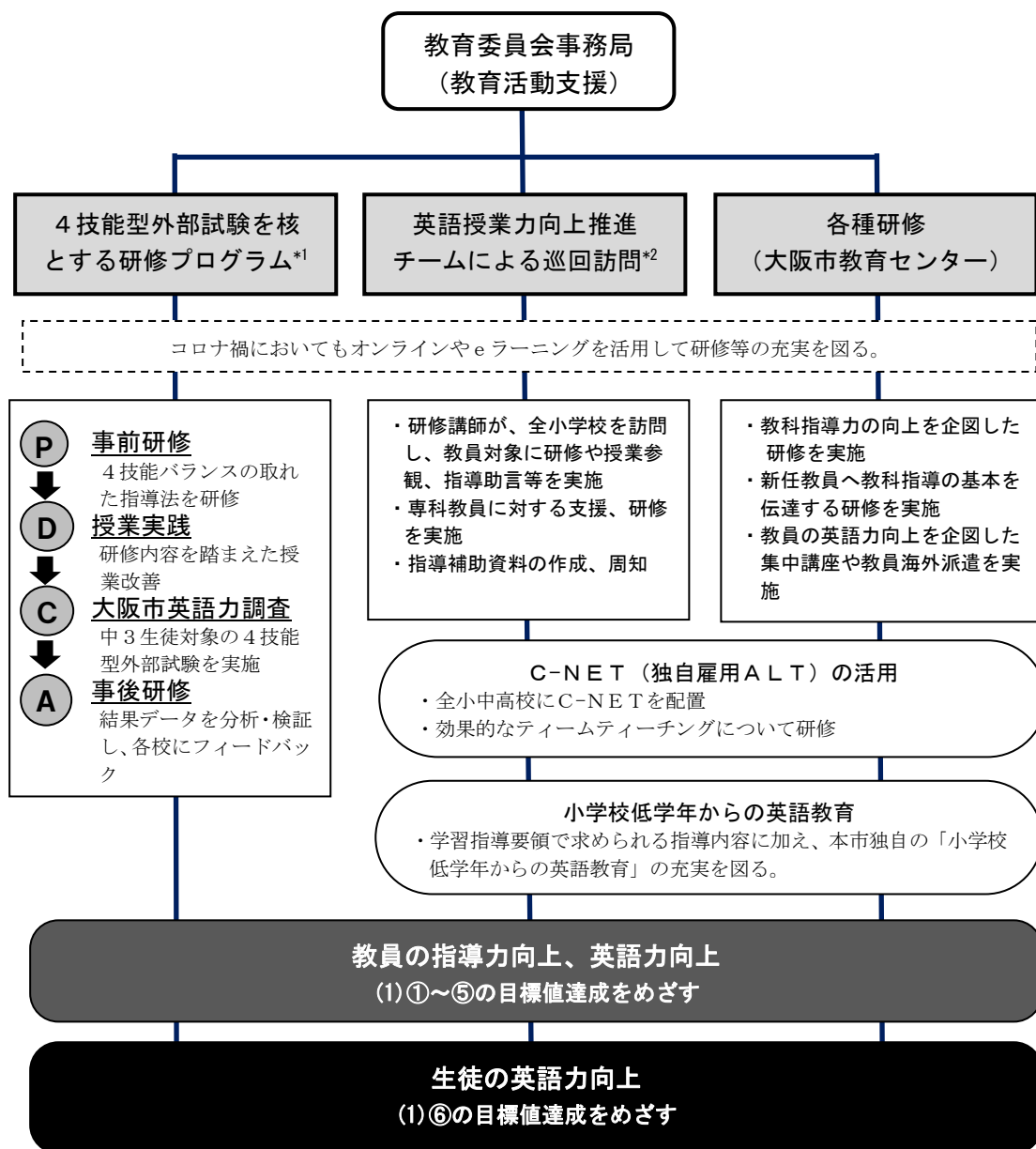
⑥ 求められる英語力を有する生徒の割合

	目標値	現状
高等学校	50.0%	32.1%
中学校	50.0%	54.0%

- ・高校生の英語力については、全体で32.1%となっているが、英語教育を主とする学科を設置する学校では、83.8%に達しており、普通科やその他の学科を設置する学校において改善を要する。
- ・(図1) 中学生の英語力については、平成25年度から大阪市英語力調査(「聞くこと」「読むこと」の2技能)により測定しており、中学校3年生でCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒数の割合は年々上昇し、平成29年度以降50%以上を達成できている。  
(図2) しかしながら、令和元年度全国学力・学習状況調査の結果によると、「話すこと」「書くこと」において全国と同様に、自分の考えを即興で伝えたり書いたりすることに課題が見られる。



(2) (1)の目標を達成するための取組(施策の全体像と具体的な計画)



\*1 4技能型外部試験を活用した大阪市英語力調査を中学3年生対象に実施する。加えて、事前研修により教員の指導力向上を図り、その効果を大阪市英語力調査により測定する。そして、得られた結果データを分析・検証する事後研修を通して、教員がさらに授業改善を図り、生徒の4技能バランスのとれた英語力の育成をめざすものである。

\*2 本市が設置した「英語授業力向上推進チーム」が講師として小学校を訪問し、学習指導要領で求められる英語指導について研修する。研修講師が直接小学校を訪問することで、全ての小学校教員の指導力向上を図る。

① 学習到達目標の整備を進めるための取組

- ・小中学校外国語主任研修を実施し、「大阪市版『CAN-DO リスト』の形での学年別到達目標(大綱)」について周知する。そして、各校における学習到達目標を活かした授業改善及び達成状況を把握する評価の充実、改善を促す。
- ・高等学校については、設置科に応じた「CAN-DO リスト」の形での学年別到達目標の設定、公表を教育委員会が支援し、達成状況の把握を各校に促す。

## ② 生徒の授業における英語による言語活動を行う時間の割合を向上させるための取組

- ・ 大阪市英語力調査として4技能型外部試験を導入し、4技能をバランスよく指導するための研修プログラムを構築することで、教員の指導力向上を図る。
- ・ ネイティブ・スピーカーを活用した英語力向上のための研修を実施し、英語で効果的な言語活動を行える教員の育成を図る。

## ③ パフォーマンステストの実施状況を改善するための取組

- ・ 教育センターにおける各研修において、パフォーマンステストの適切な実施方法やルーブリックの作成方法等について、具体的な事例を示して研修を行う。

## ④ 英語担当教員の授業における英語使用状況を改善するための取組

- ・ 教育センターにおける各研修を通して、英語で授業を進めることができる指導力の育成を図る。
- ・ 外部機関や大学等と連携した研修を実施し、教員に求められる英語力の向上を図る。
- ・ 大阪市英語力調査として4技能型外部試験を導入し、それを活用した教員研修を実施することで、教員の授業改善を図る。

## ⑤ 求められる英語力を有する英語担当教員の割合を向上させるための取組

- ・ ネイティブ・スピーカーを活用した英語力向上研修を実施し、教員が授業で活用できる英語力の向上を図る。
- ・ 外部機関と連携した集中講座を実施し、CEFR B2レベル以上の英語力を有する教員の育成を図る。
- ・ 小学校教員の新規採用における一定の英語力を有する教員の採用を促進する取組  
次の(1)～(3)のいずれかに該当する受験者には、申請により第1次選考面接テスト受験者の総合点並びに第2次選考の筆答テスト及び実技テストの合計得点のそれぞれに加点する。

(加点内容)

	第1次選考	第2次選考
(1)を満たす場合	面接テスト受験者の総合得点に90点加算	筆答と実技の合計得点に30点加点
(2)を満たす場合	面接テスト受験者の総合得点に60点加算	筆答と実技の合計得点に20点加点
(3)を満たす場合	面接テスト受験者の総合得点に30点加算	筆答と実技の合計得点に10点加点

- (1) 中学校教諭又は高等学校教諭の英語の普通免許状の所有、英検1級合格、GTEC(CBT)1,350点以上取得、IELTS7.0以上取得、TOEFL(iBT)95点以上取得、TOEIC(L&R)945点以上取得のいずれかを満たす人
- (2) 英検準1級合格、GTEC(CBT)1,190点以上取得、IELTS5.5以上取得、TOEFL(iBT)72点以上取得、TOEIC(L&R)785点以上取得のいずれかを満たす人
- (3) 英検2級合格、GTEC(CBT)960点以上取得、IELTS4.0以上取得、TOEFL(iBT)42点以上取得、TOEIC(L&R)550点以上取得のいずれかを満たす人

## ⑥ 求められる英語力を有する生徒の割合を向上させるための取組

- ・ 4技能型外部試験を活用した研修を通し、英語科教員一人ひとりが自己の授業内容を分析し、授業改善を図る。
- ・ 授業における英語で言語活動を行う割合を増やすことで、本市生徒の課題である「話すこと」「書くこと」等の能力の向上を図る。
- ・ 小中学校の教員が共に、中学校卒業段階で求められる生徒の英語力を育成するために、小中学校外国語主任研修を通して「大阪市版『CAN-DO リスト』の形での学年別到達目標(大綱)」を共有し、各学年において目標達成をめざした指導と評価を推進する。
- ・ 指導力のあるネイティブスピーカーを全小中高等学校に配置する。

(3) (2) を実施する体制の概要

◆ 英語イノベーション事業

	取組の必要性・目標	具体的方策	事業効果												
ネイティブ・スピーカーの活用	生きた英語や多様な文化を学ぶ機会を増やす。	独自雇用の外国語指導員 (C-NET) 134 名を全小中高等学校に配置	中学校卒業段階における英語力が CEFR A1 レベル相当以上の割合												
小学校低学年からの英語教育	9 年間一貫した英語教育を実施し、4 技能バランスの取れた英語コミュニケーション能力を育成する。	全小学校で小学校低学年からの短時間学習を実施 (本市独自)	<table border="1"> <tr> <td>現 状</td> <td colspan="2">2 技能において 54%</td> </tr> <tr> <td>目 標</td> <td colspan="2">4 技能において 50%</td> </tr> </table>	現 状	2 技能において 54%		目 標	4 技能において 50%							
現 状	2 技能において 54%														
目 標	4 技能において 50%														
英語力の把握・検証	中学生の英語力を的確に把握するとともに、各学校における学習指導の改善・工夫に役立てる。	大阪市英語力調査 4 技能型外部試験を核とした PDCA の構築 5 月：事前研修 5～10 月：授業実践 10 月：英語力調査 1 月：事後研修	高等学校卒業段階における英語力が CEFR A2 レベル相当以上の割合 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>英語科</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>現 状</td> <td>32%</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>84%</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>目 標</td> <td colspan="2">50%</td> </tr> </table>		英語科	その他	現 状	32%			84%	24%	目 標	50%	
	英語科	その他													
現 状	32%														
	84%	24%													
目 標	50%														
英語活動支援	児童生徒が、集中的に英語を使う機会を提供する。	英語体験イベント「イングリッシュ・デイ」を実施													
教員の指導力・英語力向上	教員の指導力・英語力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語授業力向上推進チームによる巡回訪問</li> <li>ネイティブ・スピーカーを活用した英語力向上研修等</li> </ul>	CEFR B2 レベル以上の英語力を有する教員の割合 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>中</td> <td>高</td> </tr> <tr> <td>現 状</td> <td>30%</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>目 標</td> <td>50%</td> <td>75%</td> </tr> </table>		中	高	現 状	30%	72%	目 標	50%	75%			
	中	高													
現 状	30%	72%													
目 標	50%	75%													

◆ 大阪市教育センター

研修名	受講対象	目的	研修回数	受講予定数
小学校外国語活動・外国語科新任教員研修 1	令和 3 年度採用の小学校教諭 (1 年目)	小学校外国語活動・外国語科の基本的な事項について、講義と実技を通して理解し、外国語活動・外国語科における指導方法を習得する。	1 回 (14 展開)	420 名
小学校外国語活動・外国語科新任教員研修 2	令和 2 年度採用の小学校教諭 (2 年目)	小学校外国語活動・外国語科の授業研究に係る事項について、講義と実践研究を通して理解し、外国語活動・外国語科の指導に係る工夫改善の方法を習得する。	1 回 (13 展開)	385 名

小学校外国語活動・外国語科研修	教職経験3年目から5年目の小学校教員	小学校外国語活動・外国語科教育の理論に係る事項について、研究資料を通して理解し、外国語活動・外国語科における指導方法の原理を習得する。	オンデマンド (1回)	未定
小学校英語短時間学習の進め方研修1・2・3	受講を希望する小学校教員	英語教育の学びの連続性について理解を深め、児童の発達段階に合わせた短時間学習教材の効果的な活用方法を習得する。	3回 (各学期1回)	60名
小学校外国語教材活用研修	受講を希望する小学校教員	英語教育の学びの連続性について理解を深め、外国語活動・外国語科教材の効果的な活用方法を習得する。	オンデマンド (1回)	50名
中学校外国語科(英語)新任教員研修1	令和3年度採用の中学校英語科担当教諭(1年目)	外国語科(英語)の基本的な事項について、講義と授業実践を通して理解し、外国語科(英語)における指導方法を習得する。	オンデマンド (1回) 集合(1回)	25名
中学校外国語科(英語)新任教員研修2	令和2年度採用の中学校英語科担当教諭(2年目)	外国語科(英語)の授業研究に係る事項について、講義と実践研究を通して理解し、外国語科(英語)の指導に係る工夫改善の方法を習得する。	オンデマンド (1回) 集合(1回)	17名
中学校外国語科(英語)研修	教職経験3年目から5年目の中学校英語科教員	外国語科(英語)教育の理論に係る事項について、実践研究を通して理解し、外国語科(英語)における指導方法の原理を習得する。	オンデマンド (1回) 集合(1回)	25名
小・中学校外国語主任研修	各小中学校の外国語主任	小中学校の接続を重視し、英語教育の学びの連続性を意識した指導を行うための方法を習得する。	オンライン (1回)	416名

